令和　2　年度 事後評価・決算　**施策評価シート**　令和3年11月　作成

施策番号	335	施策名	文化財と伝統行事の継承	主管課名	生涯学習課
総合計画体系	政策名	3	創造豊かな教育・文化の里づくり	令和　2　年度課長名	黒瀬　豊
	関係課名			シート作成者	日下　隆春

1．施策の対象と意図の指標

①施策の対象（誰、何が対象か）		③対象指標（対象の数・規模）	単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 町内の文化財・伝統文化	→	ア 指定文化財数	件	見込値			**166**	166	166
				実績値	166	165	**165**		
イ 町民	→	イ 町民人口	人	見込値			**12,143**	11,970	11,800
				実績値	12,926	12,754	**12,625**		
ウ	→	ウ		見込値					
				実績値					

②施策の意図（対象をどうしたいのか）		④成果指標（意図の達成度）	単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 適切に保存、管理し、後世に継承する	→	ア 保存・継承されている文化財の数	件	目標値	166	166	**166**	166	166
				実績値	166	165	**165**		
				達成率	100.0%	99.4%	99.4%	99.4%	99.4%
イ 伝統文化に親しんでもらう	→	イ 伝統行事や文化活動に参加している町民の割合	%	目標値	55.0	55.0	**55.0**	49.0	49.5
				実績値	47.3	46.6	**49.3**		
				達成率	86.0%	84.7%	89.6%	100.6%	99.6%
ウ	→	ウ 文化等を後世に伝承すべきと思っている町民の割合	%	目標値	95.0	95.0	**95.0**	95.0	95.0
				実績値	92.4	90.3	**92.9**		
				達成率	97.3%	95.1%	97.8%	97.8%	97.8%
エ	→	エ		目標値					
				実績値					
				達成率					

⑤成果指標設定の考え方	⑥成果指標の把握方法と算定式等
歴史的財産を大切に保存・継承し、同時にそれが過去から現在、未来へとつなぐ重要な町の財産と理解することができる町民を増やすことが大切であり、日頃から伝統行事や伝統文化に親しんでいる町民の割合と文化財を大切にしたいと考えている町民の割合を成果指標とした。	町民アンケート（対象者1,000人中481人が回答）

2．施策の役割分担

施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	①住民の役割　（自助・共助・協働でやるべきこと）	②行政の役割　（町・都道府県・国がやるべきこと）
	・文化財、伝統文化の存在価値を理解してもらうとともに、保護・継承してもらう。 ・文化財の保存・継承は、可能な限り地域住民・団体で行ってもらう。 ・文化財を活かし、生涯学習普及の一助として活用してもらう。	・個人ではできないような保存活動、解説パンフレットや冊子など、文化財や伝統文化の広報活動を実施する。 ・文化財を活かした学びの機会提供を行う。

3．評価結果

2　年度の評価結果

1．施策の成果水準とその背景・要因

①成果指標の時系列比較（成果は向上したか？低下したか？要因は？）

指定文化財の件数は令和2年度末現在で、国・県・町指定を合わせて165件である。日頃から地域文化に触れている町民の割合は決して高くはないが、文化財や伝統文化を大切にしなければならないという町民の意識は高い。この背景としては、公民館などでの身近な地域にある石碑めぐりやふるさとの歴史を学ぶ講座などの影響が考えられる。広報巻末に掲載中のシリーズの効果も伺える。

☐ 向上した
☑ ほとんど変わらない
☐ 低下した

②他団体との比較（近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は？）

行政が指定した文化財数は近隣市町村との比較ではかなり多く、県下でも上位に入る。合併時に4町村の指定を継続したこと、町域面積が広いため文化財の分布範囲が多岐にわたっており、他の地域に比べて指定に見合う文化財が豊かといえる。その反面、文化財を観光や地域づくりの素材として活用していくという意識は近隣自治体と比較すれば低く、これが伝統行事等への参加率が向上しない一因にもつながっていると思われる。

☐ 高い水準
☑ ほぼ同水準
☐ 低い水準

③住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか？）

鏡野町文化財保護審議会委員12名（各地域3名づつ）を委嘱し文化財保護活動に取り組んでいることや地区公民館が伝統文化継承の一翼を担っていることなどにより、文化財保護や文化の伝承に関心が高いものと考えられる。一方で過疎・高齢化により保護・継承活動が厳しくなってきているとの意見も寄せられている。

☐ 高い水準
☑ ほぼ同水準
☐ 低い水準

2．施策の成果実績に対する　2　年度の取組や目標達成度

■2　年度の主な取組の成果（改革改善した取組、目標の達成度は？）

オオサンショウウオ捕獲調査事業は、地元団体の協力もあり、少しづつ地域への理解が深まりつつある。博物館に収蔵した埋蔵文化財整理業務や古文書などの資料を整理、目録作成等の作業は少しづつは行えるようになったが、寄贈資料も増えつつあり、これらの収蔵場所や収蔵方法など検討すべき課題は多い。また、新型コロナ感染拡大防止のため、博物館講座や講演会等が中止になり、普及啓発の場が少なくなったことが悔やまれる。

☐ 目標値以上
☑ 目標値どおり
☐ 目標値以下

3．施策の今後の課題と改革改善の方向（うまくいかなかった取組や事務事業は？その原因は？）

過疎・高齢化の中で、所有者のみでは管理が行き届かない文化財も多く、地域の文化財は地域で守っていくという意識へと向かわなければならない。そのためには文化財の価値を高めるための調査・研究を行い、これらを活用した観光産業・町づくりへの方策を提案できることが理想的であるが、人員が決定的に不足しており、十分な改革・改善の展望が描けない現状である。（現状：専門職員1名）また、コロナ禍により、地域の伝統的な祭りが開催困難となっている。この状態が今後も続けば、地域の伝統行事が継承できなくなるおそれもあり、地元へ伝統行事の存続をよびかけ、行政としてどこまでの支援ができるかを検討していかなければならない。